

2008 年度日本経済学会秋季大会研究報告要旨

原子力発電所内請負労働者の安全衛生教育訓練

松本 章邦 *

原 尚幸 **

縄田 和満 ***

概 要

日本の原子力発電所では、以前から請負労働者が多く使用され、また、労働者の安全衛生に関する一般公衆の関心も高かった。近年、労働者派遣事業や職業紹介事業に関して、法改正が相次いでなされ、規制が緩和されてきた。労働者派遣と同じような特徴を持つ業務請負の利用も、1990 年代に急拡大したと考えられる。それとともに、それら労働者の安全衛生教育訓練の水準確保が心配されるようになってきた。本稿では、原子力発電所内請負労働者の安全衛生教育訓練の水準が、直接雇用労働者よりも低くなる可能性を検証する。そして、業務請負の利用には、教育訓練水準を担保する際の非効率があることを示し、それにもかかわらず、業務請負が利用され得ることを示した。また、原子力発電事業に関連する法令や過去の事象を調査し、そのような可能性を高める特質を見出した。

Keywords: Risk management, Human error, Contingent worker, Asymmetric information.

*東京大学工学系研究科地球システム専攻博士課程, 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1,

**東京大学工学系研究科技術経営戦略専攻, 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1,

***東京大学工学系研究科技術経営戦略専攻, 〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1.